

広げよう！コミュニティ・スクールのメリット・魅力

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の導入が進んでいますが、導入後の展開に課題を抱えているという自治体や学校は少なくないようです。子供たちの豊かな学びにつながり、地域も元気になるようなコミュニティ・スクールを展開していくために、まずはそのメリットや魅力を多くの大人が共有することが大切です。

📣 コミュニティ・スクールの仕組みを導入することによるメリットとして主に以下の3点が挙げられます。

メリット① 組織的・継続的な体制の構築 = 持続可能性

校長や教職員の異動があっても、学校運営協議会によって地域との組織的な連携・協働体制がそのまま継続できる「持続可能な仕組み」です。



メリット② 当事者意識・役割分担 = 社会総掛かり

校長が作成する学校運営の「基本方針の承認」を通して、学校や地域、子供たちが抱える課題に対して関係者がみな当事者意識をもち「役割分担をもって連携・協働による取組」ができます。

メリット③ 目標・ビジョンを共有した 「協働」活動

学校運営協議会や熟議の場を通して、子供たちがどのような課題を抱えているか、地域でどのような子供を育てていくのか、何を実現していくのか「目標・ビジョンを共有」できます。

📣 子供、保護者、教職員、地域の人々、それぞれにとって以下のような魅力があります。

子供にとっての魅力

- ・学びや体験活動が充実します。
- ・自己肯定感や思いやりの心が育まれます。
- ・地域の担い手としての自覚が高まります。
- ・防犯・防災等の対応による安心・安全な生活ができます。

保護者にとっての魅力

- ・学校や地域に対する理解の深まりによる家庭教育との相乗効果が生まれます。
- ・地域の中で子供が育てられているという安心感があります。
- ・保護者同士や地域の人との人間関係が構築できます。

教職員にとっての魅力

- ・地域の人々の理解と協力を得た学校運営や「社会に開かれた教育課程」の実現が可能になります。
- ・地域人材を活用した教育活動が充実します。
- ・地域の協力による子供と向き合う時間の確保ができます。

地域の人々

にとっての魅力

- ・経験が生かせることにより生きがいや自己有用感につながります。
- ・学校が地域のよりどころになります。
- ・学校を核とした地域ネットワークが形成され、地域の課題解決につながります。
- ・地域の防犯・防災体制の構築ができます。

それぞれの人が魅力を実感することができれば、コミュニティ・スクールの必要性への理解が深まるでしょうね！実感を生み出す取組については裏面で見てください！

○ コミュニティ・スクール推進の成果や必要性について考えてみましょう。

校長先生が感じている コミュニティ・スクール導入の成果

- ◎ 学校と地域が情報を共有するようになった。
 - ◎ 地域が学校に協力的になった。
 - ◎ 特色ある学校づくりが進んだ。
- ※「学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研修」より R2文部科学省実施

震災復興の中でもコミュニティ・スクールは非常に重要な役割を果たしたそうです。

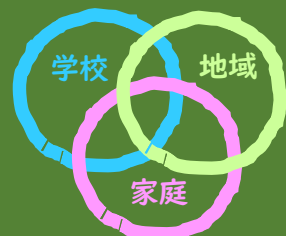
新型コロナウイルス感染症対策などの有事の際、様々な判断を瞬時に行う必要があるときに学校運営協議会は大きな後ろ盾になります。

学校を取り巻く状況

- ・「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた学習指導要領の着実な実施
- ・働き方改革の推進、GIGAスクール構想の推進
- ・不登校やいじめ、児童虐待への対応
- ・新型コロナウイルス感染症対策の徹底と子供たちの健やかな学びの保障の両立

保護者や地域住民等が「当事者」として学校運営に参加し、目標の共有・その目標達成のための対話・協働、評価する令和型の新たな学校改革が必要です。

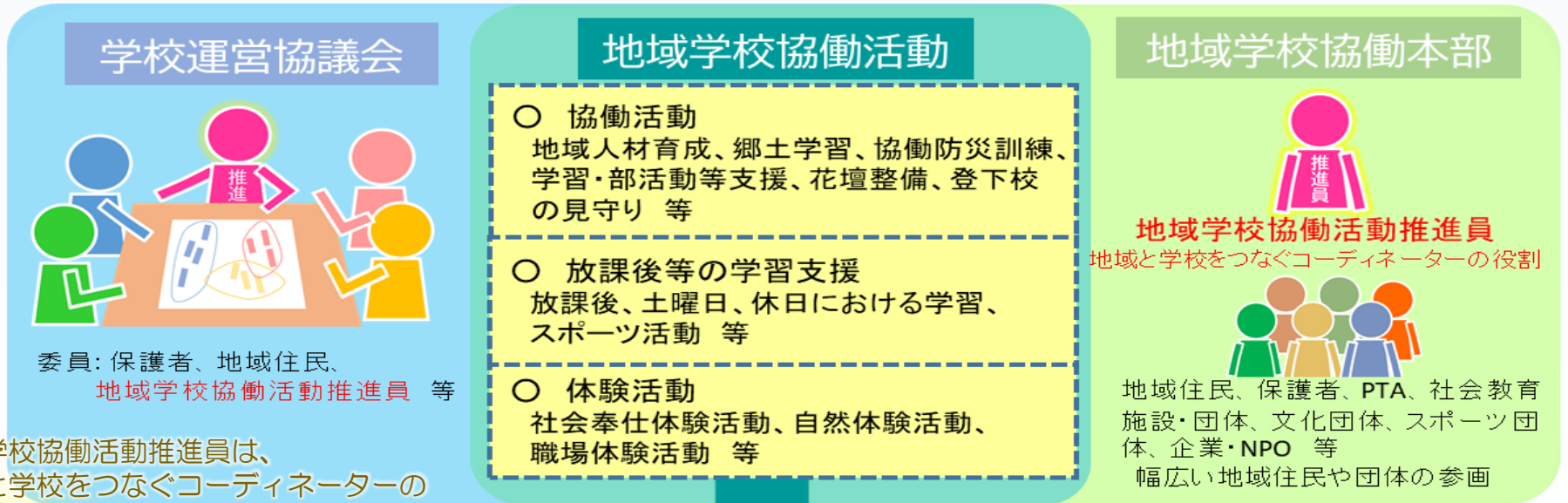
これまで以上に学校と家庭、地域とが連携していくことが重要
= コミュニティ・スクールの仕組みが必要！



魅力の実感は
コミュニティ・スクールと
地域学校協働活動との
一体的推進から

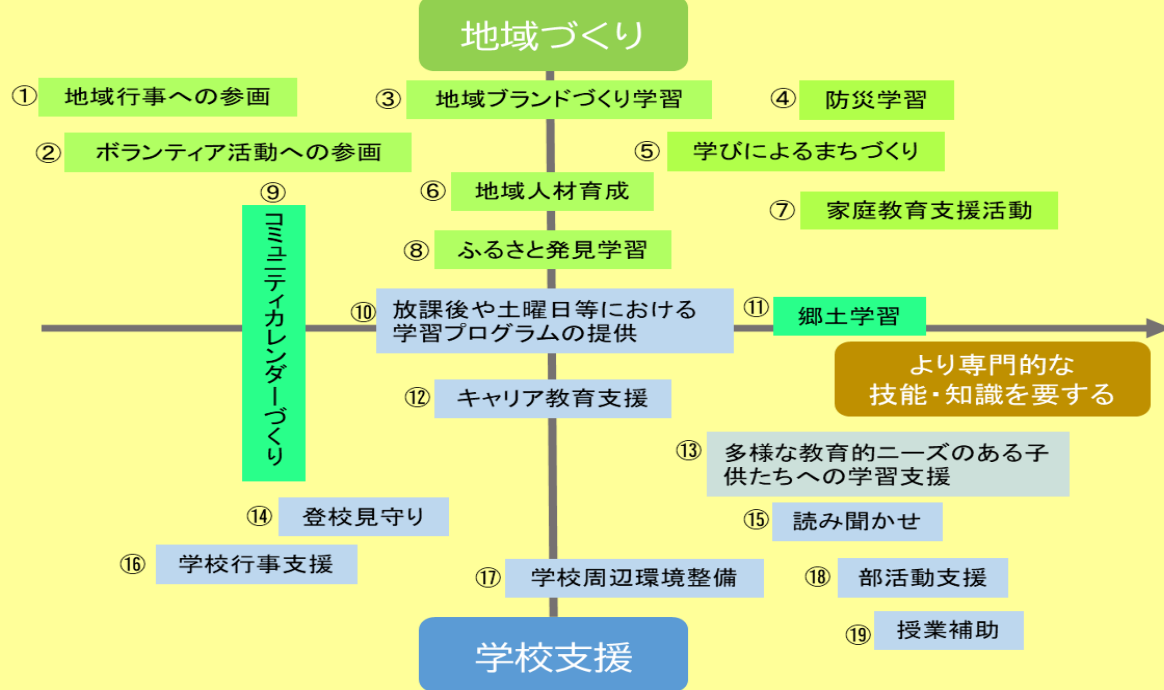
コミュニティ・スクールの魅力は、地域学校協働活動との一体的推進による取組を通して実感されます。子供、保護者、地域の人々、教職員、それぞれにとっての「魅力の実感」につながる取組を考えてみましょう。

学校運営協議会の仕組みを生かして学校と地域の効果的な連携・協働を推進していくためには、より多くのより幅広い層の地域住民団体、団体等が参画し、緩やかなネットワークを形成する「地域学校協働本部」と双方が機能することが重要です。地域学校協働活動推進員が学校運営協議会の委員になることで、学校と地域が目標やビジョンにしっかり取り組む推進体制を構築することができます。



地域学校協働活動推進員は、地域と学校をつなぐコーディネーターの役割を果たします。

【地域学校協働活動の取組例】



取組例を参考に、子供の実態や地域の特色に応じた取組を考えてみましょう。

※「地域学校協働活動 地域と学校でつくる学びの未来」2019文部科学省資料参照

「魅力の実感」につながる取組にはどのようなものがあるでしょうか。以下に示した魅力を生み出す取組を上記の【取組例】から選び番号を書き入れてみましょう。

子供にとっての魅力

- 学びや体験活動が充実します。(例:①②③④⑧…)
- 自己肯定感や思いやりの心が育まれます。()
- 地域の担い手としての自覚が高まります。()
- 防犯・防災等の対応による安心・安全な生活ができます。()

地域の人々にとっての魅力

- 経験が生かせることにより生きがいや自己有用感につながります。()
- 学校が地域のよりどころになります。()
- 学校を核とした地域ネットワークが形成されます。()
- 地域の防犯・防災体制の構築ができます。()

保護者にとっての魅力

- 学校や地域に対する理解の深まりによる家庭教育との相乗効果が生まれます。()
- 地域の中で子供が育てられているという安心感があります。()
- 保護者同士や地域の人との人間関係が構築できます。()

教職員にとっての魅力

- 「社会に開かれた教育課程」の実現が可能になります。()
- 地域人材を活用した教育活動が充実します。()
- 地域の協力による子供と向き合う時間の確保ができます。()

